

事務 事業名	コード1	39200	社会教育活動費	事業 種別	☐ 国土強靱化地域計画	課	生涯学習課				
	コード2	①	青少年育成市民会議の推進		☐ 新市建設計画	所属班	社会教育施設班				
施策 体系	施策 の展開	14 28	青少年の健全育成 青少年の健全育成の推進		☐ 総合戦略	電話番号	55-5727	内線	277		
					☐ 復興計画	予算	会計		款	項	目
					☐ 定住自立圏構想	科目	一般会計		10	4	1
				☐ 行政改革アクションプラン	根拠 法令	旭市青少年育成市民会議規約					
				☐ 主要事業							
				☐ 簡易評価							
1 現状把握(Do)											

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 17 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	1、推進事業 旭市青少年意見発表大会(発表者、小学生・中学生・高校生・青年) 2、啓発事業 「地域のこどもは地域で守り育てる運動」の啓発物資の配布 3、奨励事業 旭市青少年育成小・中学校区会議(主催は各学校PTAで全20校開催) 夏季休業中の指導計画、行事及び危険箇所、地区・団体との情報交換 【業務の流れ】 6月～7月 旭市青少年育成小・中学校区会議の開催 11月 旭市青少年意見発表大会の開催、来場者へ啓発物資の配布 年3回の会議開催

(2)トータルコスト

① 費目の内訳(26年度の実績)		単位:千円	単位	(決算)	(決算)	(決算)	(計画)	
1.需用費	54	啓発用品購入代、記念写真印刷代	事業費	千円	48	53	54	75
2.委託料	21	手話通訳委託料		千円	18	25	21	33
3.使用料及び賃借料	89	東総文化会館使用料		千円	55	88	89	89
4.負担金及び交付金	180	青少年健全育成補助金		千円	180	180	180	180
	0			千円				
② 特定財源の内訳(26年度の実績)		単位:千円	財源	事業費計 (A)				
1.国庫支出金	0			千円	301	346	344	377
2.都道府県支出金	0			千円	0	0	0	0
3.地方債	0			千円	0	0	0	0
4.その他	0			千円	0	0	0	0
前年度比増減理由:				千円	301	346	344	377
③ 延べ業務時間の内訳(26年度の実績)		単位:時間	人件費	正規職員従事人数				
旭市青少年意見発表大会事務(200時間)				人	0.15	0.15	0.15	0.15
その他事務(100時間)				時間	300	300	300	300
				千円	1,140	1,140	1,140	1,140
				千円	1,441	1,486	1,484	1,517

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	26年度実績(26年度に行った主な活動) ・旭市青少年意見発表大会 (発表者13名、小学生8名・中学生2名・高校生1名・青年2名) ・啓発事業(地域のこどもは地域で守り育てる運動) ・旭市青少年育成小・中学校区会議(全20校開催) 27年度計画(27年度に計画している主な活動) ・旭市青少年意見発表大会(発表者15名) ・啓発事業(地域のこどもは地域で守り育てる運動) ・旭市青少年育成小・中学校区会議(全20校)	ア 20歳未満の人口	人	12,190	12,006	11,787	11,584
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 意見発表大会の発表者数	人	14	14	14	14
	6歳から20歳未満の青少年	ウ 会議開催回数	回	3	3	3	3
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑥ 対象指標名	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	社会性や豊かな人間性を持つ青少年を地域全体で育成していく。	ア 6歳から20歳未満の人口	人	8,931	8,766	8,653	8,481
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
	20歳未満市民(未成年)が心豊かに育つ	ア 青少年意見発表大会発表大会の出席者数 ()	人	130	300	300	300
		イ 旭市青少年育成小・中学校区会議出席者数 ()	人	606	665	753	760
		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (計画)
		ア 青少年健全育成事業の参加者数(青少年育成市民会議事業、青少年相談員連絡協議会事業、海上キャンプ場事業)	人	12,157	12,318	10,889	11,960

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
地域において、日常における育成活動を、住民運動として推進し、家庭、学校、社会の活動と連携、育成団体、青少年団体などとの連絡調整、青少年のための社会環境浄化、青少年団体への参加促進などの育成活動に、地域総ぐるみで取り組むために、総合的な計画を立て具体的な実践活動の推進母体となる組織とする。	昭和52年11月に千葉県青少年問題協議会が知事に答申した「青少年行政の今後の推進について」の重点事項として、青少年育成市町村民会議づくりが提言され、昭和53年度からその設置促進に努めている。平成27年4月1日現在の設置市町村は54市町村(37市16町1村)中43市町村が設置している。	地域住民すべてが参加する地域ぐるみの運動にすることが望まれる。

事務事業名	社会教育活動費 青少年育成市民会議の推進	課名	生涯学習課	班名	社会教育施設班
-------	-------------------------	----	-------	----	---------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	家庭・地域・学校等各種団体との協力体制のもと青少年健全育成活動を実施している。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	青少年の健全育成が目的であるため、対象及び意図は適切である。
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	青少年が様々な機会・活動を通して地域との関わりや世代間交流を促進し、社会性や豊かな人間性を持つ青少年を育成してゆくため。
有効性 評価	④ 成果の現状水準	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	青少年健全育成のための効果的な事業を行い成果を上げている。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	青少年意見発表大会については、毎年アトラクションを加えるなどをして集客増に努めている。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(生涯学習まちづくり推進事業)) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☒ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	青少年の健全育成の必要性を効果的に周知するため、生涯学習フェスティバルの開催時に合わせ青少年意見発表大会の開催や地域のこどもは地域で守り育てる運動の啓発活動を実施している。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	既に他の事業との同時開催や東総文化会館の大ホールから小ホールへ変更など行っているため事業費削減は難しい。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	事業を減らさないかぎり業務時間の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	青少年健全育成は、市全体の問題であり明確な受益者はいない。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	青少年が心身共に健やかに成長することを願い、地域の協力体制のもと青少年健全育成活動を実施している。青少年意見発表大会の開催や夏休み前に中学校区会議及び小学校区会議を開催して、地域のこどもは地域で守り育てる活動が展開されている。本会議は次代の旭市を担う青少年の健全育成を目的としたものであり、事業費削減の余地はないものと考えている。
② 有効性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	
③ 効率性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																							
☐ 目的再設定	☐ 行政関与の見直し		<table border="1"><thead><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
								コスト																		
						削減	維持	増加																		
成果	向上																									
	維持		○																							
	低下																									
☐ 事業のやり方改善による成果向上	☐ 事業統廃合・連携(関連事業:)																									
☐ 事業のやり方改善による事業費削減	☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減																									
☐ 受益機会の適正化	☐ 費用負担の適正化																									
☐ 廃止・休止																										
(2)改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？																										
いつまでに	なにを、どうするのか？																									
事務改善については、主な事業である青少年意見発表大会を平成24年度から小学校と中学校を半分に分けそれぞれ隔年での実施として規模を縮小し、毎年アトラクションを加えるなどをして集客増に努め、会場を大ホールから小ホールへ変更するなど、事業費削減にも努めているため改革改善の余地がないものと考えられる。 年間の事業及び会議は数回であるため、改革改善の余地はないと考えられる。																										
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																										